



Greeting

研究科長あいさつ

広島大学大学院法務研究科長

木下正俊 KINOSHITA Masatoshi

金融論、金融システム法、
金融取引法、先端金融法

日本銀行に30年間勤務した後、法科大学院の発足と同時に教育界に転じた。金融システム改革と法制整備の評価、資産流動化・証券化等の先端的金融の意義と法的問題等のテーマを中心に研究している。本年4月、法務研究科長就任。

公正で豊かな社会を実現するパイオニア

皆さんが目指す法曹の役割は、豊かな社会を「法の支配」を通じて実現することにあります。法的サービスに対する国民のニーズは、これからさらに顕在化し拡大するでしょう。

私が長年身を置いてきた金融の世界では、つい10数年前まで「お上の意向」を意識することはあっても、「法の支配」を意識することは少なかったように思います。いわゆる「護送船団行政」の下で金融機関同士の競争は制限され、国民が享受する金融サービスは質と量の両面で制約されていました。このような世界も、日本版ビッグバンを契機として、競争の促進を通じるサービスの向上へと大きく舵が切られました。これに伴い、紛争解決や消費者・投資者保護の手段として法の役割は格段に高まっています。

この一例からみても、法曹が活躍する舞台は、多様化しつつ拡大していくものと思います。舞台は何も法廷に限られるものではありません。むしろ訴訟に至る前に専門家としての知恵を国民に広く提供することも重要です。

このような様々な法的ニーズを背景に、「国民の社会生活上の医師」としての法曹を育てる中核的機関として法科大学院が設置されました。それから6年が経過し、既に多くの修了生が法曹として活躍し始めています。その反面、世間では修了生の質や弁護士の就職難等を理由に法曹人口の増加にブレーキをかけるべきとの意見が強く主張されていることも事実です。もちろん、修了生の質を担保すべく教育の質の向上に努めることは法科大学院の責務であり、引き続き精一杯努力する所存です。それと同時に、法曹関係者には、国民のニーズを掘りあげサービスを広く行き渡らせるための粘り強い取組みを期待したいと思います。

皆さんには、国民の熱い期待を真正面から受け止め果敢にチャレンジする人間性豊かで逞しい法曹を目指していただきたいと思います。

Contents

目次



| | |
|---------------|----|
| ■ 研究科長あいさつ | 1 |
| ■ コンセプト | 3 |
| ■ 教育プログラム | 5 |
| ■ カリキュラム 1 | 7 |
| ■ カリキュラム 2 | 9 |
| ■ 教員スタッフ | 11 |
| ■ 新司法試験受験状況 | 17 |
| ■ 修了生からのメッセージ | 18 |
| ■ 施設・設備 | 19 |
| ■ 入試案内 | 21 |
| ■ Q & A | 23 |
| ■ インフォメーション | 25 |